

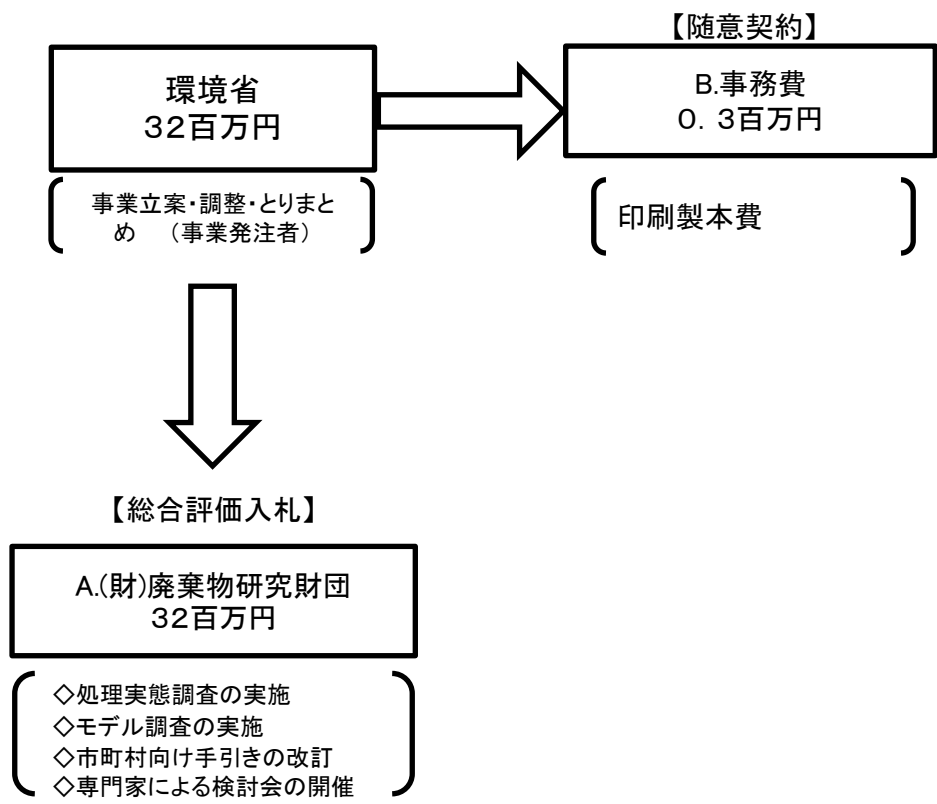
平成24年行政事業レビューシート

(環境省)

事業名	し尿・浄化槽汚泥からのリン回収・利活用推進事業		担当部局庁	大臣官房廃棄物・リサイクル対策部		作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度	平成22～24年度		担当課室	廃棄物対策課		廃棄物対策課長 山本 昌宏			
会計区分	一般会計		施策名	4-3 一般廃棄物対策（排出抑制・リサイクル・適正処理等）					
根拠法令 (具体的な条項も記載)	循環型社会形成推進基本法第9条、第27条等		関係する計画、通知等	循環型社会形成推進基本計画					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	し尿・浄化槽汚泥はリンを比較的高濃度に含むといった特徴があり、未利用リン資源のひとつとして期待されているところである。汚水からのリン回収は閉鎖性水域の富栄養化防止等の観点からも要請されているところである。しかしながら、回収設備の設置・維持管理や物流にかかるコストや、回収したリンの受入先確保等の問題から、現在のところリン回収設備の導入例は少なく、リン資源の利活用が進んでいるとは言い難い状況である。このため、リン回収・利活用に関する現状、課題及び今後必要な施策等を把握し、未利用リン資源のひとつであるし尿・浄化槽汚泥からのリン回収・利活用システムの構築を推進することを目的とする。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	<ul style="list-style-type: none"> ・既にリン回収を行っているし尿処理施設におけるリン回収・利活用の状況を把握し、リン回収の経済性、回収したリンの受入条件など、リン回収・利活用システム構築に当たっての課題や回収の効率を向上させるための施策について整理する。 ・汚泥比率等の条件の違いによるリンの回収率や維持管理上の問題点等について技術的な検証を行うため、モデル調査を行い、その結果の考察を行う。 ・上記の成果等を踏まえ、し尿処理システム全体として経済性、環境負荷、循環型社会形成の観点から評価を行い、効率的なリン回収・利活用システムの確立を図る。 								
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他								
予算額・執行額 (単位:百万円)			21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求		
	予算の状況	当初予算	—	50	42	29			
		補正予算	—	0	0	0			
		繰越し等	—	0	0	0			
		計	—	50	42	29			
	執行額		—	47	32				
	執行率 (%)		—	94	76				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標				単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)
	推進施策の検討を行う事業であり、定量的な成果目標は存在しない。			成果実績					
				達成度	%				
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標				単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	推進施策の検討を行う事業であり、定量的な成果目標は存在しない。			活動実績 (当初見込み)					—
							()	()	
単位当たりコスト	(円/)			算出根拠					
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由					
	環境保全調査費	29		平成24年度で事業終了					
	計	29							

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・状況・予算の	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	し尿・浄化槽汚泥はリンを比較的高濃度に含むといった特徴があり、未利用リン資源のひとつとして期待されているところではあるが、リン回収設備の導入例は少なく、リン資源の利活用が進んでいるとは言い難い状況である。このため、リン回収・利活用に関する現状、課題及び今後必要な施策等を把握する必要がある。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目・	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	総合評価方式により、競争性を確保している。また、随時に業務の進捗状況を把握し、必要に応じて指示を行った。
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	リン回収・利活用の推進において多くの成果を引き出すため、し尿・浄化槽汚泥からの応用的なリン回収・利活用についての検討を行い、市町村向け手引きを見込みどおりに改訂した。
	—	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	—	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<ul style="list-style-type: none"> ・委託契約については、引き続き競争性のある契約を実施する。 ・平成22年度事業において、し尿・浄化槽汚泥からのリン回収・利活用についての基礎的な情報を整理し、市町村向け手引きを作成した。 ・平成23年度事業において、し尿・浄化槽汚泥からの応用的なリン回収・利活用についての検討を行い、市町村向け手引きを改訂した。 ・平成24年度事業では、過年度の検討成果を精査するとともに、市町村等における手引きの活用状況及び手引きを踏まえ実際にリン回収・利活用を導入するに当たっての課題等を整理することにより、リン回収・利活用の推進において多くの成果を引き出すこととする。 		
予算監視・効率化チームの所見			
廃止		当初の目的を達成するため、事業終了。	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

※平成23年度実績を記入



資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

A.(財)廃棄物研究財団			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
旅費	現地調査等	1			
人件費	調査事業	18			
一般管理費		3			
外注費	試料採取、測定	6			
その他	技術料	2			
消費税		2			
計		32	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)廃棄物研究財団	し尿・浄化槽汚泥からのリン回収・利活用推進検討業務	32	1	76%

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)新生社	印刷製本	0.3	随意契約	—